

▲▽小樽地区沖合底曳網漁船4隻が出漁！▽▲ 北海道地方支部

小樽地区の沖合底曳網漁船は、冷水で育ち脂の乗ったホッケ、スケソウダラ、マダラなどの安定供給に力を入れている。毎年9月半ばに漁が始まり、翌6月半ばに切り揚げる。その後、約3カ月間は休養と本船および漁具の整備作業を行い、次の出漁に備える

航海の安全と大漁を願いエール

9月13日、小樽地区所属船の第85日東丸（日東水産株式会社）、第57三光丸（株式会社盛本漁業部）、第81桂丸（株式会社伊藤漁業部）、新世丸（小樽機船漁業協同組合）が令和5年度出漁するにあたり、小樽港において安全祈願祭が執り行われ、各船主、乗組員一同は肅々と頭を下げ、安全航海と大漁を祈願した。

また、4隻が出漁する15日は、出漁式も行われた。今期出漁に向けて組合員からは「今年も安全操業に努めていきたい。安全第一、事故、怪我ゼロを目指し頑張ってくる」との意気込みが述べられた。

出港時間になると岸壁には、それぞれ乗組員の家族や関係者が集まり、大漁と安全操業のエールを送った。それに乗組員は手を振り応えと、新世丸から第81桂丸、第85日東丸、第57三光丸と、順番に離岸していった。

「海員だより」